

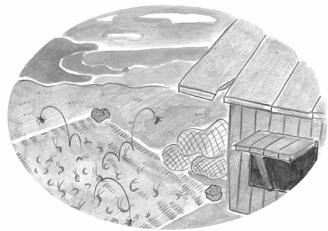
俳句

1年目 ステップ6

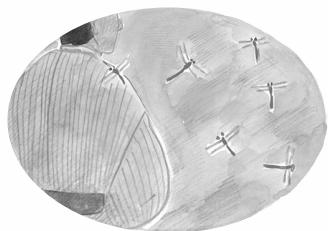


音声はこちら

あまや 海女の屋は 小海老にまじる いとどかな
まつおばしょく 松尾芭蕉



かたき 肩に来て ひと 人なつかしや あか 赤とんぼ



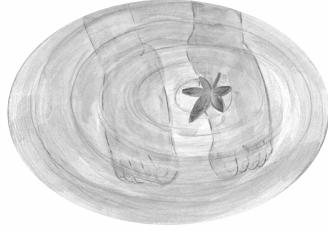
なつめそうせき 夏目漱石

あらうみや さびよこ 佐渡に横たう 天の川



まつおばしょく 松尾芭蕉

ゆそこ 温泉の底に わあしみ 我が足見ゆる けさ 今朝の秋



よさぶそん 与謝蕪村



おんせい
音声はこちら

慣用句

1年目 ステップ6

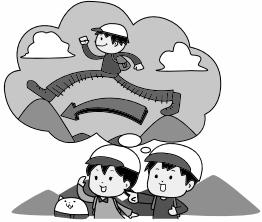
て あせ にぎ
手に汗を握る

いつたい
一体どうなるのだろうとはらはらしている様子。



あし
足をのばす

よてい ところ とお
予定していた所よりも遠くへ行く。



かた なら
肩を並べる

おな てい ど ちから も たいとう い ちた
同じ程度の力を持って対等の位置に立つ。



ねこ ひたい
猫の額

と ち 土地などがとてもせまい様子。



まと い
的を射る

い けん ひょうろん ようてん
意見や評論がたくみに要点をつかんでいること。





《動詞の活用》

動詞の活用 種類は五つ

五段活用 言葉の最後が アイウエオの 五段に活用

上一段活用 語尾に イ段の音がはいります

下一段活用 語尾に ウ段の音がはいります

カ行変格活用 こ き くる くる くれ こい

サ行変格活用 せ し する する すれ せよ

カ変 サ変は 不規則に変化する



見分け方
言葉の下に「ない」をつける

①

「歩く」 + 「ない」 → 「歩かない」 あるか？
あ

言葉のさいごをのばすと
あになる

②

「起きる」 + 「ない」 → 「起きない」 おきつい

言葉のさいごをのばすと
いになる

③

「受ける」 + 「ない」 → 「受けない」
うけいえ

言葉のさいごをのばすと
えになる



下一段活用



上一段活用



五段活用



おんせい
音声はこちら

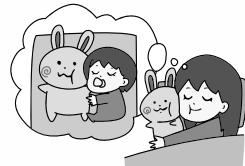
ことわざ

1年目 ステップ6

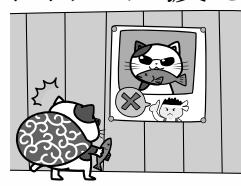
寄らば大樹の陰
よ たいじゅ かげ
いきお もの たよ ほう あんぜん りえき おお
勢いのある者を頼る方が安全であり、利益も多い
ということ。



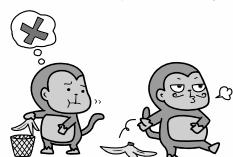
雀百まで踊り忘れず
すずめひやく おど わす
ようしょうき み しうかん とし あらた
幼少期に身に付いた習慣は、年をとっても改めにくいということ。



悪事千里を走る
あくじ せんり はし
わる ひょうばん かく ひろく しわたり わた
悪い評判はいくら隠してもすぐに広く知れ渡ると
いうこと。



人のふり見て我がふり直せ
ひと み わ なお
ひと よいところを見て、自分の行動を反省し、次
てん あらた こうどう はんせい はつ
点を改めろということ。



一石二鳥
いつせき にちょう
ひと どうじ ふた りえき せいちょう え
一つのことをして、同時に二つの利益や成長を得
ること。



のど元すぎれば熱さ忘れる
もと あつ わす
どんなに苦しい経験も過ぎてしまえばけろりと忘
れてしまうこと。



百人一首

1年目 ステップ6



おんせい
音声はこちら

天あま
雲くもつ
の風かぜ
を通かよ
とひい
め路じ
の姿すがた吹ふ
しき
しばしとどめむ

わ
八やた
十その
人ひと島しま原はら
にかけ
は告つて
げよ 潟こ
海あ出い
人までぬ
の釣つりと
舟ぶね

(僧正遍昭)
そうじょうへんじょう

(參議篁)
さんぎたかむら

